

鐵

と

鋼

第四年第七號

大正七年七月二十五日發行

會長就任の挨拶

本年三月二十三日通常總會に於ける筆記なり(編者)

今 泉 嘉 一 郎

講演に移ります前に、ちよつと御挨拶いたします、本日の總會に於て私が本會の會長に推薦されました事は誠に光榮に存じ謹んで御請けを致します、實は先般、評議員會の御決議として御内談がありましたが、どうも私よりも先輩の方が御居でゝあるし、年輩の方も御出でゝあるのみならず、自分は淺學不才、到底本會を代表する資格の無い者と考へて居るので、一應御斷り致し私から二三人の方々に交渉を試みましたが、皆さん御辭退を致され、こゝに御居でになる香村君の如きも御都合上、固く御辭退なされたので、そこで已むを得ず私が御請け致すことになつた次第でございます、併し何を申すも斯の如く其れだけの資格の無いのみならず、平生極めて多忙な俗事に關係いたし居ります爲めに、十分に本會の會長として活動することが覺束ないかも知れませぬ、果してさう云ふ場合がございましたならば任期の來るを待たずして御辭退申上げるかも知れませぬ、又諸君の御考に依つて夫れてはいかぬから退けと云ふことになれば、いつ何ん時でも退く考へてございます、併し一旦御請いたした以上は出来るだけの努力は當然でございますのみならず、殊に前會長野呂博士が十分後援をして下さると云ふことでありますから、一つはそれを特みに勉めらるゝだけ勉むる考へてございます、どうか宜しく願ひます。(終)